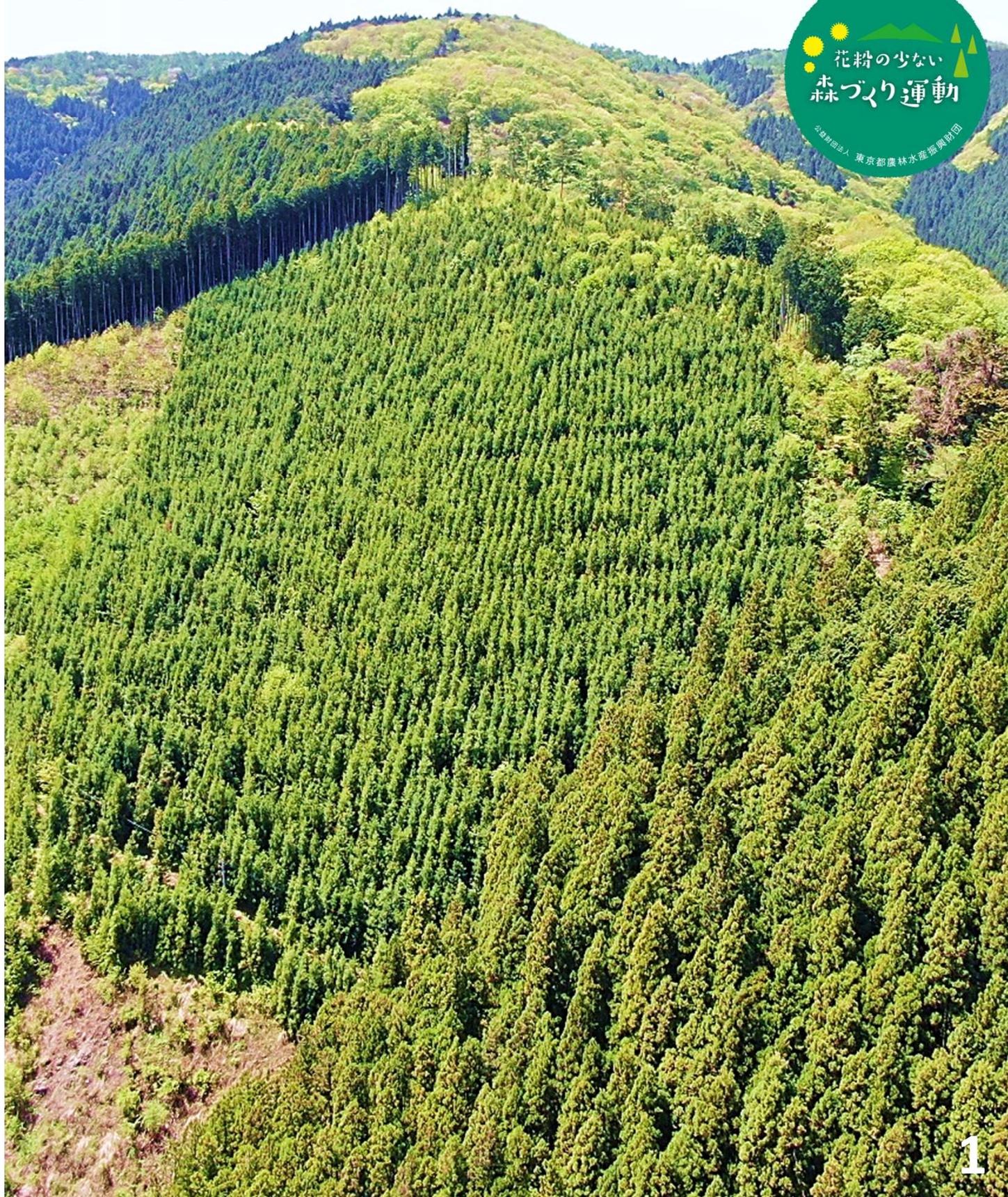


「企業の森」かわら版 No.2

SPRING 2021



Contents

SPRING 2021

企業の森の「いま」

3～6... 2021年 春・企業の森の様子
企業の森をドローンから撮影
花粉の少ないスギの生育状況



7～9... 「企業の森」に住む動植物
企業の森にあらわれたニホンカモシカ
地面に這いつくばって「企業の森」
を撮影しました



10... 台風被害からの復旧

花粉の少ない森づくり運動 News & Information

11... ナラ枯れ被害の拡大防止策



12... 20年間にわたる森づくり



企業の森の「いま」



2021年春・企業の森の様子

企業の森をドローンから撮影



【表紙の写真】

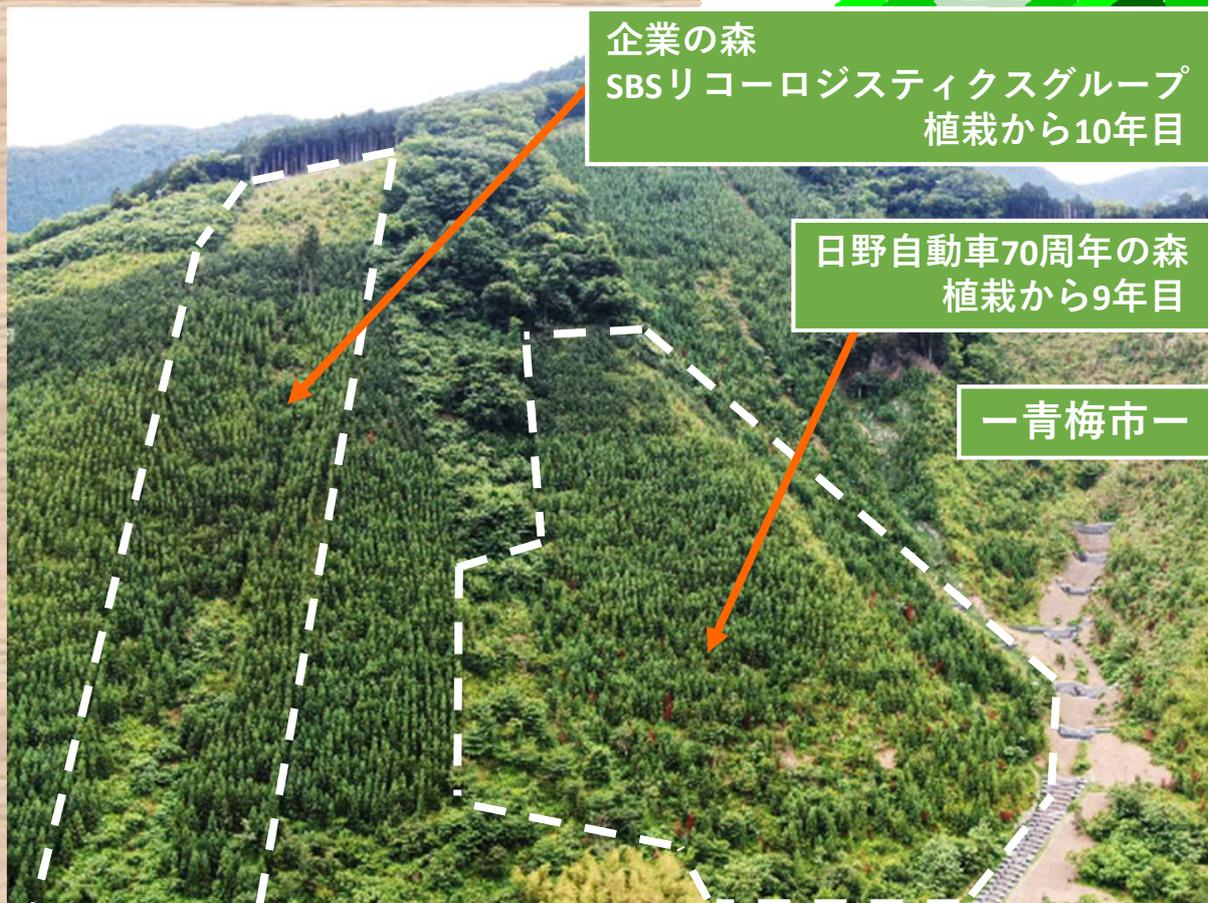
サントリー天然水の森 奥多摩
一檜原村ー 植栽から11年目

ドローンを使用して企業の森全体を見わたせるようになりました。



動画は、こちらをご覧ください。

<https://youtu.be/Id9KczhOJcs>



企業の森
SBSリコーロジスティクスグループ
植栽から10年目

日野自動車70周年の森
植栽から9年目

—青梅市—

上空から見ると森の広大さがわかります。



動画は、こちらをご覧ください。

<https://youtu.be/uYcPpQFCWqM>



企業の森・三菱HCキャピタルグループの森
―八王子市― 植栽から3年目



上空からですとわかりづらいですが、植栽したスギは、約1mまで成長しています。



動画は、こちらをご覧ください。
<https://youtu.be/QKr1GnT3AIA>



「企業の森」に住む動植物

企業の森にあらわれたニホンカモシカ

今日は、春の暖かい日差しが降りそそぐ穏やか日です。ところが前日は関東全域に強風が吹き荒れたため、獣害防護柵は大丈夫か？隣接地の倒木による植栽木への影響はないか？を「ネッツトヨタ多摩 プリウスPHVの森（青梅市）」へ確認に行きました。現地へ向かうと目が覚める出来事に遭遇しました。

前日の強風はおさまっているのに、なぜか隣接地の森の中から「ガサゴソガサゴソ」と風が吹いているような音が聞こえてきます。その音の方向をよく見てみるとニホンカモシカ（特別天然記念物）の親子？が三頭で食事をしている最中で、周囲の下草を食べているようです。こんな姿をみると心がホッコリします。しかし、ニホンカモシカは、植栽したスギやヒノキを食べてしまうので、近年は獣害防護柵などの対策が必要です。今回は、柵の外側にいたため、植栽した木に直接の被害はありませんでした。

また、この日の見回りでは、柵の破損などはなく一安心しました。



動画は、こちらをご覧ください。

<https://youtu.be/sarsAWxJy9s>



地面に這いつくばって「企業の森」を撮影しました

春を迎え、落葉していた広葉樹が青々と芽吹き、針葉樹も鮮やかな緑に輝いて見えます。

当財団では、植栽した樹木の生育状況などを確認するため、「企業の森」の巡回を行っています。春の時期は時折発見する自生植物に目を奪われます。普段は植栽したスギやヒノキを確認するため、上の方を向きがちですが、今回、ご紹介する自生植物は、地面から5～20cmほどの低い位置に咲いていたので、あえて地面に這いつくばって撮影をしてみました。

これらの花々は、都市の緑地ではなかなか見られないものも多く、「自然の多様性」を教えてください。

八重ヤマブキ

春に黄色の花を咲かせる低木で、山地の明るい傾斜地に自生します。



企業の森・（公社）青梅法人会
—青梅市— 4月

キンラン（金蘭）※絶滅危惧種

毎年草刈をしないと出てこず、他の場所に植えてもなかなか根付きません。



サントリー天然水の森とうきょう秋川
—あきる野市— 4月



ジュウニヒトエ

花が重なって咲く様子を女官の衣装に見立て名付けられたとされる。個体数は激減しているようです。



日本事務器
あきる野引田
企業の森
—あきる野市—
4月

ノアザミ

春先に開花するノアザミは、水はけが良い土壌で日当たりを好む性質があります。



企業の森・あくなき創造の森
—あきる野市— 4月

キジムシロ

元気をもらえるような鮮やかな黄色の花を咲かせます。日当たりが良い場所を好み、太陽の光を集めたかのように感じさせます。



企業の森・きらぼしの森
—八王子市— 4月

キランソウ

地面に這うように咲く野花で、光沢があり、つややかな葉っぱが織物の「金襴（きんらん）」の切れ端のように見えることからついたと言われています。



企業の森
三菱HCキャピタル
グループの森
—八王子市—
5月

台風被害からの復旧

甚大な被害をもたらした台風19号（2019年10月）から1年半が経過しました。当時、山林の崩壊などがいくつも発生しました。

主な被害は、暴風による倒木、豪雨による崖崩れ、苗木の流出などでしたが、下の写真（左）は、2012年に植栽した山で、台風被害により斜面が崩壊した様子です。そして、写真（右）が2021年6月現在、治山工事中の様子です。（治山工事とは、荒廃した森林の復旧や、荒廃の予防を図るものです。）

多少の被害であれば、再び苗木を植えて森づくりを再開することができますが、今回の被害は、苗木を植え直すのみでは復旧することが難しく、治山工事による構造物で山崩れを止めてから緑化を促しています。

ここ十数年の間の「異常気象」により、各地で今までに経験したことのない自然災害が起こっています。健全な森林を育むことは、これらの災害の予防にもつながります。

今年の夏は、台風被害がないことを強く願っています。



花粉の少ない森づくり運動

News & Information

ナラ枯れ被害の拡大防止策

前号のかわら版 WINTER 2021 No.1でカシノナガキクイムシによりナラ類（ミズナラ、コナラなど）が枯死してしまっているというお話をご紹介しました。

このナラ枯れ被害は、2019年頃から広い範囲で発生しているのですが、この被害を最小限におさえるために、被害を受けて枯れてしまった樹木への処置（※写真①、② 捕獲用粘着シート）が行われている現場がありましたので、ご紹介します。

カシノナガキクイムシの被害を受けた樹木の中で育った新成虫は、主に6月から8月に脱出して、他の樹木へ飛来します。この捕獲用粘着シートは、被害を受けた樹木に巻いてあります。新成虫が脱出しようとしても、粘着シートによって外へ飛び出せないようになっており、被害の拡大を防ぎます。

また、被害を受けて枯死した樹木は、伐採処理することもあります。ナラ類は、伐採するとそのまま枯れてしまうのではなく、若く元気な木であればすぐに切り株からたくさんの芽を出すこともあります。この芽がふたたび成長して幹となり木になるという、まるで若返りを図るような再生を繰り返すことができます。これを萌芽更新（ぼうがこうしん）といいます。

自然の生命力は、すごいですね。若い芽が再び大きく育つことを期待しましょう。



※写真① 捕獲用粘着シートで処置された樹木



※写真② 粘着シートの内側（見えていません）は、ムシがくっつくようにできています。

20年間にわたる森づくり

「企業の森」は、協賛企業・団体の皆さまと10年間の協定を締結し、花粉の少ないスギやヒノキなどの植栽や下刈りなどの森づくりを行っています。

10年間の長きにわたり森づくりを行っていただいた新宿区、(株)カナデン、(公社)青梅法人会、SBSリコーロジスティクス(株)の4者様より「11年目以降も森の成長を見守りたい。」「森づくりをとおして森林の持つ多様な機能発揮に貢献したい。」とのご要望をいただき、協定をさらに10年間延長し、通算20年間にわたる森づくりが今年度よりスタートしました。

そこで、11年目から20年目までの標準的な作業スケジュールを簡単にご紹介します。

まず、11年目となる今年、「**除伐**」を行います。自然に生えてきたスギやヒノキの生育の妨げとなる樹木や曲がった木、生育の悪い木を除去します。合わせて、スギやヒノキの下部の不要な枝も除去します。

19年目になると、「**間伐**」を行います。成長に伴って混み合った樹木どうしの間隔を広げるために間引きします。樹木の間隔を空けることで太陽の光が森全体に差し込むようになり、林床に様々な植物が生育するように導きます。

そして、20年目に「**枝打ち**」を行います。枝打ちは、木の下から上に向かって、葉の光合成能力が衰えた余分な枝や枯れ枝などを、手斧やノコギリなどで伐り落とす作業です。枝打ちにより、節の少ない良質な木材を育てるとともに、林内が明るくなり、病虫害の予防なども期待されます。

これらの森づくりに必要な作業をすることにより、花粉の少ないスギやヒノキが育つ次世代の森づくりを進めていきます。



光が差し込まない密集した森



間伐後、光が差し込んだ森



公財団法人 東京都農林水産振興財団
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

次号はSUMMER 2021を発行します。